

重要無形民俗文化財の新規指定 1件

1. 名称 当麻寺練供養 (たいまでらねりくよう)
2. 所在地 奈良県葛城市
3. 保護団体 当麻寺菩薩講
4. 公開日 毎年4月14日
5. 概要

念仏行者の臨終に、阿弥陀如来が菩薩たちとともに迎えに訪れ、極楽へ導く様を演じて見せる「迎講(むかえこう)」は、比叡山の源信が始めたと言われ、後に各地で練供養、あるいは来迎会の呼称が定着した。当麻寺の練供養は、奈良時代の当麻寺で仏門に帰依した中将姫が、阿弥陀如来や二十五菩薩に迎えられ現身往生したという様子を、境内を舞台に再現してみせるものである。当麻寺本堂である曼荼羅堂から東方にある娑婆堂まで長い架け橋(来迎橋)が渡される。極楽浄土から二十五菩薩(実際には菩薩二十四、天童二、地藏菩薩・龍樹菩薩各一の二十八)に扮した菩薩講の人たちが、娑婆堂に進み中将姫を蓮台に乗せて浄土へ導く儀式で、曼陀羅堂は西方極楽浄土を象徴し、娑婆堂は俗世界を象徴している。来迎橋を練り歩く菩薩等の所作等にも特色が見られ、練供養の変遷の過程や、地域的特色を示して重要である。



【法如化生坐像を迎える(野本暉房撮影)】



【来迎橋を渡る菩薩たち(野本暉房撮影)】